



つけたしも
案外と・・・

コラタン たのしみ



コラルトでは「認知症サポーター養成講座」を定期的に展開していくことを活動のコアとし、その活動を通じて、新しいコミュニティのカタチを模索していきます。

コラルトは“つけたし”のコミュニティ

認知症に対する理解を広めていく活動の中で、生活全般に関するリスク・ヘッジの必要性を感じる方も多くいらっしゃるでしょう。

そこで、コラルトではコミュニティを通じた、相互扶助のカタチを提案していきます。職場や学校、家族、地域などとは性質が違う、セーフティネットとしての第三の“つけたし”のコミュニティです。

なんとなくそこでつながっているという“ゆるふわ”な“まあいい集まり”ですが、つながっているという安心感は、他には代えがたいものです。心が弱った時には誰かがそばにいてくれるだけでも有難いものです。まずはそこが基本です。

お守りとしての“つけたし”のつながり・・・「いとへの時代」のコミュニティです。

今後の説明を進めていくにあたり、コラルトのコミュニティに参加されるみなさんを、「コラタン」と表現します。（当初からの漫画のタイトルですね。W）では、コラタンとはどのような存在なのか・・・以下にご紹介します。



△を包摂するOいコミュニティ

法人を“活用”する

コラルトでは定期的に情報発信をしていますので、情報共有的につながっているだけで良いという方は、それだけでも十分です。

そのうえで、コラルトではその先のコミュニティ・デザインを考えました。それはコラタン（参加者≒社員）が「法人を活用する」ということです。

- 基本コンセプトは以下の3段階です。
- STEP 1：安心・安全の確保
 - STEP 2：生活の質の向上
 - STEP 3：新しいしくみの応用

一般的な株式会社は株主が法人を区分所有するという形態で、社員は株主の利益のために働いて（雇用されて）います。

一方、コラルトではコラタンが法人を共有+活用するという形態をとります。会社⇨社員という方向性ではなく、社員⇨会社という裏返しのベクトルです。

NPOですので利益追求という縛りもないため、コラタンはコラルトという法人を共有+活用して、相互の役に立てるような活動をしていくことができます。



受動的な雇用▶積極的な活用

例えば、単純に設備の共有という点では、個人では所有しにくい3Dプリンターをコラルトが所有し、それをコラタンが共有し活用する。

モノだけでなく、しくみ（契約）も共有できます。

例えば、同性のカップルが不動産を借りるときになかなか理解されにくいという現状がありますが、コラルトが不動産を借り上げ、コラタンのカップルに提供するという形にすれば、社宅として一般的な形になるかもしれません。

他にも従来「戸籍上の親族」にしかできなかったようなことでも、「組合」的に、法人をからめた契約をまくことによって、第三者的な形で展開が可能となることも多く出てくることでしょう。

もちろん、個人では参加しにくい展示会への参加などで、単純な形で法人を共有+活用することもできます。必要に応じて名刺やメールアドレス、郵便物の送付先などを利用することができます。

コラタンは、時には仲間と一緒に、コラルトを共有+活用して、個人ではできない活動を自発的に試行錯誤+展開することができます。

「試行錯誤の社会実顕ラボ」としてのコミュニティを“デザイン”します。

コラルトのコンセプトが、なんとなくおわかりいただけましたでしょうか。

「ゆるふわなコミュニティをベースに、法人を共有+活用して、自分たちに必要なモノやしくみ、サービスを生み出していくための試行錯誤を積極的に繰り返していくチーム。」・・・そして、そのデザインの重要なキーとなるピース（要素）が「情報」です。

次回はコラルトにおける「情報の持つ意味」についてお話ししていきます。（たいこん）